

青少年のきずな

今号もご覧ください

編集・発行 久留米市子ども未来部 青少年育成課(久留米市野中町1074-1) TEL(0942)35-3806 FAX(0942)34-9001

(お知らせ)若者相談「みらくる」(中学卒業後～39歳の総合相談窓口)専用フリーダイヤル0120-369656 FAX(0942)34-9001

3年ぶりに開催 久留米市少年育成指導員研修会

5月20日(金)、エーるピア久留米の視聴覚ホールで、「久留米市少年育成指導員研修会」を開催し、地域で活動されている多くの少年育成指導員の皆さんが出席されました。

少年育成指導員とは、青少年の健全育成や非行の未然防止などについて、青少年育成課や関係団体等と連携して活動していただくため、市の委嘱を受けた市民の方々です。

研修会は、少年育成指導員の皆さんの活動に役立つようにと毎年開催していましたが、ここ2年間は新型コロナウ

イルスの影響で中止となり、3年ぶりの開催となりました。

今回の研修のテーマは、スクールカウンセラー等として豊富な経験を持つ西村修さんによる「多様な青少年の理解と関わり方」。社会環境の変化等に伴い多様化してきている青少年への理解とその関わり方について、ユーモアを交えながらわかりやすくお話していただきました。

市は少年育成指導員の皆さんと一っしょに地域全体で子どもたちを支える活動を進めていきます。地域の皆さんのご理解ご協力をよろしく願います。

研修「多様な青少年の理解と関わり方」(抜粋)

(講師)西村 修 様(福岡市スクールカウンセラースーパーバイザー)

「みなさん、昭和は終わりました。」

青少年の問題というのは青少年だけでなく家族や地域などが問題を抱えていて、それが青少年の行動に表れている。それをどう理解し関わるか、何ができ何が効果的なのか一緒に考えていきたい。

「昭和は終わった」ということを再認識してください。昭和が悪いとかいう話ではなく大事なのは子どもや保護者が生きている“今”の時代に効果的なものを我々自身がバージョンアップしていくこと。

皆に通用するやり方はない。自分のやり方が通用しないときは、この子には自分のやり方が合わないかもしれないから別のやり方でやってみよう、ということで使えるところがあるかもしれない。

若いときは敵か味方かとか二者択一になりがちだが、我々も実はそうなりやすい。ラインなどのSNSの閉じたコミュニティの中では自分の考えが正しく自分と同意見の人は「いい人」となりやすい。(2頁に続く)



▲講師：西村修さん

ラベリング効果・フレーミング効果

コンビニのトイレには「きれいに使っていただきありがとうございます」と書かれていて、以前書かれていた「きれいに使いましょ。きれいに使ってください」より効果が高いことがわかっている。「ラベリング効果」として「あなたはトイレをきれいに使う人ですよね」とラベリングされることで「きれいに使わなきゃ」につながる。その子を動かすために効果的な方法を我々が知っておく。

ほかにも例えば、フレーミング効果として、同じ内容

でも「95%が助かる手術」と「2000人受けたら100人亡くなる手術」では受け止め方が違う。物は言いよう。伝え方で相手に伝わる印象が変わってくる。

何を言っても通じないような子も、「もしかしたら我々がその子に合う言い方をしていないのかも。もっとこの子を動かせる言い方があるかもしれない」と考えていかなければいけない。

YOUメッセージ・Iメッセージ

アサーティブコミュニケーションという伝え方では、YOUメッセージとIメッセージというのがある。YOUメッセージは

「あなたはこうだよ」で批判や非難が入りやすく、Iメッセージは「私はこう思うよ」で批判・非難を最小限に抑えられる。

非言語的コミュニケーション

言葉で表現するのが苦手な子たちとの関係性を作る際には非言語的コミュニケーションを意識してください。ある

実験ではコミュニケーションでの言葉の持つ役割はわずか7%で、視覚刺激が53%、聴覚刺激が38%という結果。

共感と傾聴。希望はそこに。

全体的に見ると自殺者数は減少しているが、10代では増加している。優先順位一番が「死ぬしかない」という人には、そのことを否定しても反抗心が芽生えるだけ。名言や座右の銘は健康だから良い言葉と思える。我々にできるのは、やっぱり共感と傾聴。死にたくなるぐらい辛い気持ちにどう寄り添えるかが本当の意味での寄り添いだと思う。

震災で東北の10代の子たちが頑張ったように、仮に今久留米で震災が起きても10代は同じ動きをするはず。ついでものできていない所を見てもうかが、できている所もたくさんある。

意識して見あげれば希望はそこにある。ぜひ自分なりの「きぼう」を見つけてほしい。

Wi-Fi(ワイファイ)入りました!! 子どもの居場所「みらくるホーム」

「みらくるホーム」は、家庭でも学校でもない、子どもたちの第三の居場所です。

「誰かと話したい」、「ひとりの時間が欲しい」、「勉強したい」など、利用の目的は問いません。

非行や高校中退者などの相談対応、農作業などの体

験活動、就労に向けた支援なども行っています。

また、5月からWi-Fi(ワイファイ)環境が整備され、より過ごしやすい場所となりました。

一度のぞいてみませんか?

利用対象者

中学生から19歳まで。
(在校生の利用は原則、放課後・休日のみ)
※相談については保護者の方も利用できます。

支援スタッフ

経験豊富な「支援活動コーディネーター」が関係機関と連携を取りながら、子どもたちの自立や立ち直りなどに向けた支援を行います。

開設日・時間

月・火・木・金曜 → 午後1時～6時
日曜 → 午後1時～5時
(水曜・土曜・祝日・年末年始は休み)

お問い合わせ先

(電話・FAX)
0942-37-4345

(場所)
東町412-23
ティプレス久留米2階

久留米市イメージキャラクター



令和4年度「らるご久留米」開級式

4月22日(金)に野中生涯学習センターにて、適応指導教室「らるご久留米」の開級式を行いました。当日は、8名の通級生が参加しました。

来賓の久留米市教育委員会や久留米市青少年育成市民会議などから、通級生に温かい言葉をいただきました。新型コロナウイルス感染防止対策のため参加人数の制限等を行いました。通級生の在籍校からは校長先生をはじめ、各先生方に参加していただきました。

通級生は、新年度のスタートを迎え、それぞれの目標に向かって気持ちも新たに開級式に臨んだことと思います。

らるごスタッフ一同、保護者や学校と協力し、子どもたちに寄り添い、しっかりと支えていきたいと考えています。



▲開級式(青少年育成課長あいさつ)

「らるご久留米」とは・・・

心理的な理由により、登校できない、学校に行きたくても行けない状態にある児童生徒の「心の安定」や「心のエネルギー

の回復」に努め、自信の構築及び基本的生活習慣の改善を図り、社会的自立への支援を目的としています。



▲高良山ハイキング

(主な体験活動)

軽スポーツ(バドミントンや卓球など)、茶道、フラワーアレンジメント、ぶどう狩り、海釣り、音楽鑑賞、書道 等

(主な行事)

わくわくサマーキャンプ(7月末)、らるごフェスタ(11月中旬)

「らるご久留米」では・・・

午前中は学習活動を、午後は体験活動を基本にカリキュラムを組んでいます。その体験活動の一部を紹介します。

高良山ハイキングでは、事前学習として市民文化財文化財保護課職員を講師に招き、歴史について学びを深め、当日は実際に歩きながら自分で体感することで、達成感や成就感につながるようにしています。

また、パン作りや弁当作りでは、食べ物や食事に関する知識を学び、食への興味関心を育むとともに、健康についても意識を向けられるよう事前・事後学習を大切にしています。



▲パンづくり

通級するための手続きは？

「らるご久留米」への通級は、在籍校での教育相談後、在籍校を通じて申請をお願いします。



らるごっち

お問い合わせ先

「らるご久留米」
 (電話) 0942-35-3869
 (FAX) 0942-34-9001
 (住所) 野中町1074-1
 久留米市青少年育成センター2階

7月は「青少年の非行・被害防止全国強調月間」です!!

少年非行情勢は、全国的に見ても、平成15年以降、刑法犯少年の検挙補導人員が年々減少するなど改善傾向にあります。

久留米市内の令和3年中の少年非行情勢においても、非行少年の検挙状況を示す非行者率(10歳から19歳までの少年人口千人当たりの検挙補導人員のことが、2.0%まで減少しています。

その一方で、増加傾向にあるのが、大麻の乱用、インターネット利用による犯罪被害などです。少年問題は、非

行・被害の両面において依然として憂慮すべき状況です。

このような状況を改善していくためには、大人が少年問題の現状を正しく理解した上で、子どもたちを見守り指導していく必要があります。

毎年7月は、「青少年の非行・被害防止全国強調月間」です。

増加傾向にある大麻の状況やネット利用による犯罪被害についてお知らせしますので、家庭でお子さんと話し合う資料としてご活用ください。(注)文中の「少年」とは、性別を問わず、「20才未満の人」を指します。

少年の大麻乱用状況

福岡県の令和3年中における大麻乱用状況は、検挙された少年が65人でした。昨年度と比べると微増しています。

大麻は特に若い世代の使用(30歳未満が約7割)が多く、また、全国的に見ると中学生も検挙されるなど、低年齢化が進んでいます。

大麻を始めたきっかけは、大麻使用少年による実態調査から、「誘われて」や「興味本位」が9割以上を占めています。

大麻等の危険性について正しい知識を持つため、青少年育成課では、久留米警察署、久留米ロータリークラブと共同で、毎年、市内全ての小学校を対象に薬物乱用防止教室を実施しています。

その他9%

興味本意
26%

誘われて
65%

R3年 実態調査結果

「ネットトラブル相談窓口」

福岡県では、児童生徒がインターネットやスマホ利用のトラブルで困っていることや不安に思っていることを匿名で相談できるように「福岡県児童生徒のためのネットトラブル相談窓口」を開設しています。

県内の小学生、中学生、高校生が対象ですが、保護者や教員の方からの相談にも対応します。

相談は無料で、ネット問題に詳しい専門の相談員が親身に対応します。

◆電話(フリーダイヤル)による相談

(TEL)0120-494-100

【受付】月～金曜の午後6時～9時

※祝日、12/29～1/3を除く。

◆LINE、メールによる相談

(LINE)下記のQRコードから友達追加



(メール)fukuoka@netsoudan.net

【受付】月～金曜、日曜の午後6時～9時

(メールの送信は24時間可能)

※祝日、12/29～1/3を除く。



インターネット利用による犯罪被害

近年は、オンライン授業の普及等により、低年齢層の児童でもインターネットをより身近に感じるようになりました。

福岡県の令和3年中のSNSに起因する被害児童数は111名ですが、その内、106名が小学生から高校生までの児童生徒です。小学生も6名被害に遭っています。

被害者の中にはSNS等で知り合った相手から脅されたり騙されたりして、自ら裸の画像を撮影し送信した事例もあります。

このような被害は潜在化することが多く、発見が遅れると被害が拡大することがあります。被害に遭わないことが一番重要ですが、SNSで知り合った人とトラブルになったり、実際に犯罪被害に遭ってしまった際は、早めに「ネットトラブル相談窓口」(右記)や警察などの適切な機関に相談しましょう。

おしらせ

今回から、他の広報物の状況などを踏まえ、「縦書き・右開き」から「横書き・左開き」に変更しました。